

No.42

2006年5月1日号

各チームの購読料はチーム登録料に含まれています。定価(一部100円)

(社)熊本県サッカー協会だより

発行/熊本県サッカー協会
〒860-0831
熊本市八王寺町9-60
TEL 096-334-5565
FAX 096-334-5568
発行者/◎広報記録委員会
石丸 捷一

キリンチャレンジカップ2006 KIRIN WORLD CHALLENGE

日本代表vsエクアドル代表に1-0で勝利

▽交代(日) 巻・千葉(76分)
玉田 佐藤・広島(76分、久)
(エ) カイセド(67分) ソレ
イスバ(71分) フレイロア(67分、カ
ルデロン、サリタマ(85分、
ウルティア)

日本	エクアドル
川口(磐田)	GK モラ
井本(和歌山)	DF コルテス
坪内(和歌山)	DF ペルサノ
加小(和歌山)	DF エスジョ
地野(和歌山)	MF ソレイスバ
西野(和歌山)	MF テノジョ
藤原(和歌山)	FW カルデロン
田保(和歌山)	FW パルデオン

選手達は最後まで集中力を切らない。

いつものように劇的なゴールで決まった。終了間際になった勝負強さは称賛に値した。相手の逆襲を未然に防いだバランスのいい守備も評価出来る。

選手達は最後まで集中力を切らない。

選手達は最後まで集中力を切らない。

選手達は最後まで集中力を切らない。

選手達は最後まで集中力を切らない。

選手達は最後まで集中力を切らない。



平成18年度 通常総会について

日時 平成18年5月28日(日)

午後1時～午後3時

場所 大津町生涯学習センター
大会議室

平成17年度 第19回九州中学校サッカー新人大会 小川中学校 三位に終る

平成17年度第19回九州中学校サッカー新人大会は3月26・27日に宮崎県総合運動公園グラウンド・おきの郷スポーツ施設グラウンド・その他会場で開催された。

熊本県代表として小川中(第一代表)と竜北中(第二代表)が出場した。

小川中は1回戦で肥前中(佐賀県第2代表)と対戦した。前半、両チームともにコーナークICKから得点し1対1の同点で後半に入った。小川中は細かいパスと豊富な運動量で次第にペースをつかみ、2得点を追加し、肥前中の速攻を防ぎ、接戦を制した。2回戦は木屋瀬中(福岡県第2代表)と対戦し、4対0の大差で勝利した。

準決勝は桜島中(鹿児島第1代表)と対戦し、接戦の末、4対3で惜敗した。

竜北中は1回戦で日章学園中(宮崎県第1代表)と対戦したが、総合力で上回る日章学園の攻撃の前に4対0で敗れた。しかし、最後まであきらめずに、自分たちの持ち味を充分に出した好ゲームだった。

大会決勝は日章学園中と桜島中の対戦となり、2対1で日章学園中が接戦を制し、見事優勝した。

小川中は大会3位という成績を修め、竜北中も健闘した。

文と写真共に
熊本県サッカー協会
広報委員 木本 賢治



青は竜北中 がんばるキャプテン



青は竜北中 赤・黒のタテジマは日章学園中

2005年度 公認C級コーチ 指導者研修会(リフレッシュ研修会)

2005年度の公認C級コーチの指導者研修会(リフレッシュ研修会)は2006年3月21日火曜日の祝日に大津町運動公園、スポーツの森大津球技場で行われた。

今回の目的は、公認C級コーチのレベルアップを目的に義務研修として実施するとサッカー協会のパンフレットにうたっている。

主催は(財)日本サッカー協会であるが、(社)熊本県サッカー協会の技術委員会が指導を行うものである。特に今回の取得できるポイントは10ポイントであるが、C級コーチになれば4年間に最低40ポイント取得しなければならない。



平成18年度 全国シニア(O-50) サッカー大会 九州予選開催される

第5回全国シニア(O-50)サッカー大会九州予選は九州地区内より7チームが参加して4月22日(土)23日(日)の二日間、佐賀県鳥栖陸上競技場と鳥栖スタジアムで行われた。

7チームをA組4チーム、B組3チームに分けるため、4月22日(土)9時より陸上競技場での監督会議の公開抽選を行い、我が熊本県選抜チームはA組①になった。

結果は得失差でA組の3位になり予選落ち、決勝トーナメントに出場をしたのはA組1位の宮崎県対B組2位の長崎県になった。23日陸上競技場で対戦するも1対0で長崎県が勝利し全国大会の出場権を得る。

一方鳥栖スタジアムの方はA組2位の福岡県対B組1位の鹿児島県になり、結果は福岡県が2対1で勝利し、全国大会の出場権を長崎県と共に得る。

しかし日本サッカー協会へは九州1位、2位を決定する必要があるため、コイントスの結果長崎県が優勝した。



白は熊本 青は福岡 福岡ゴール前にて

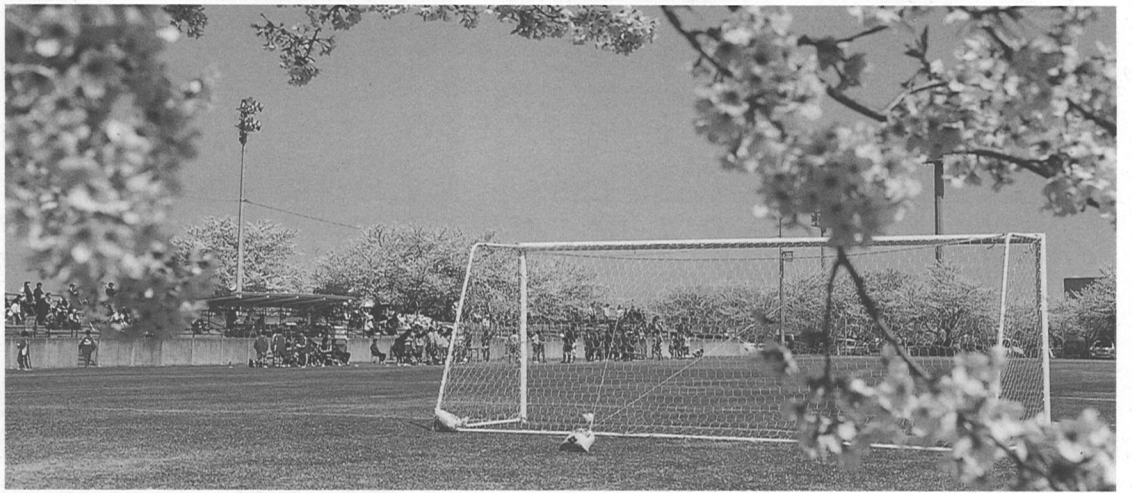
NIKE PREMIER CUP 2006 九州大会

ルーテル学院中学校は予選で敗退

2006年のナイキプレミアカップの九州大会は平成18年4月8日、9日に大分県中津市営サッカー場と三光競技場で行われた。熊本県代表のルーテル学院中学校はAブロックに。他には大分県、長崎県、福岡県の代表となった。各県代表がリーグ戦を戦い一位になったチームが決勝戦を争うことになった。Bブロックには沖縄県、佐賀県、鹿児島県、宮崎県代表の4県になった。結果はアビスパ福岡が1対0で宮崎県代表の日章学園を下し優勝した。決勝戦に進んだ2チームは5月行われる全国大会に出場する。尚、場所は福島県のJヴィレッジで行われる。Aブロックに入った本県代表のルーテル学院中学校は4月8日(土)に第一試合に出場するも2対3で大分県カティオーラFCに敗れる。第二試合目の相手は長崎県代表の海星中学校で前半共に0点、後半ルーテルが2点を入れる。4月9日(日)は9時よりキックオフ。対戦チームは福岡県代表のアビスパ福岡U-15で、ルーテルはこの試合に大量得点で勝たなければ決勝進出は無理。しかし福岡は引分け、結果は引分けとなり福岡の決勝進出。

組み合わせ表

日	No	MATCH				
4月8日(土)	A 第1節	【1】	熊本ルーテル学院中学校	2	1-1 1-2	3 大分カティオーラFC U-15
		【2】	長崎海星中学校	0	0-1 0-3	4 福岡アビスパ福岡U-15
	B 第1節	【3】	沖縄仲西中学校	0	0-3 0-1	4 佐賀サガン鳥栖
		【4】	鹿児島育英館中学校	0	0-0 0-1	1 宮崎日章学園中学校
	A 第2節	【5】	熊本ルーテル学院中学校	2	0-0 2-0	0 長崎海星中学校
		【6】	大分カティオーラFC U-15	0	0-2 0-1	3 福岡アビスパ福岡U-15
	B 第2節	【7】	沖縄仲西中学校	3	2-1 1-0	1 鹿児島育英館中学校
		【8】	佐賀サガン鳥栖	1	1-1 0-1	2 宮崎日章学園中学校
4月9日(日)	A 第3節	【9】	熊本ルーテル学院中学校	0	0-0 0-0	0 福岡アビスパ福岡U-15
		【10】	大分カティオーラFC U-15	1	1-1 0-0	1 長崎海星中学校
	B 第3節	【11】	沖縄仲西中学校	2	1-1 1-4	5 宮崎日章学園中学校
		【12】	佐賀サガン鳥栖	1	1-1 0-0	1 鹿児島育英館中学校
	決勝戦	【13】	Aブロック1位 アビスパ福岡U-15	1	0-0 1-0	0 Bブロック1位 日章学園中学校



ルーテル(エンズ)VS海星中学校(緑)キックオフ前



ルーテル(エンズ)VS海星中学校(緑)

〈落雷の予兆〉に関する参考資料

文献『雷から身を守るには—安全対策Q&A—改訂版』(日本大気電気学会編、平成13年発行)には、落雷被害を避けるための予知方法について次のように記述されている。以下抜粋して掲載する。

「どのような方法でも発生・接近の正確な予測は困難ですから、早めに安全な場所(建物、自動車、バス、電車などの内部。)へ避難することです。

モクモクと発達した一群の入道雲は落雷の危険信号です。厚い黒雲が頭上に広がったら、雷雲がさらに近づいたと考えて下さい。雷雲が近づくときは、多くの場合は突風が吹くとともに気温が下がり、やがて激しい雨になります。しかし、突風や降雨より落雷が先に起こることがありますので、早めの避難が大切です。」

「雷鳴はかすかでも危険信号です。雷鳴が聞こえるときは、その後の雷が自分に落ちてくる危険がありますから、すぐに安全な場所に避難して下さい。雷鳴が聞こえなくて雨も降っていないときに、突然落雷が発生する場合がありますので、雷鳴だけで雷の発生や接近を判断するのは危険です。

もっと遠いところの雷の発生は、ラジオで中波や短波のAM放送を受信していると、ガリッガリッという雑音が入ることにより、検知できます。雑音の間隔が短くなり、激しく連続的になるときは、雷がさらに接近してくるときです。このときはラジオの雑音だけでなく、雷鳴にも注意して下さい。雷鳴が聞こえてくれば、雷雲はすでに危険な範囲に入っています。」

「雷雲が遠ざかって雷鳴が聞こえなくなっても、20分くらいはまだその雷雲から落雷の危険がありますから、安全な場所で待機することが必要です。また、一つの雷雲が去っても、次の雷雲が近づいてくる場合がありますので、新しい雷雲の接近に常に注意することが必要です。」

「自動車、バス、列車、鉄筋コンクリート建築の内部は安全です。」「本格的な木造建築の内部も普通の落雷に対しては安全です。しかし、テントやトタン屋根の仮小屋の中は、屋外と同様に雷の被害を受ける危険があります。」

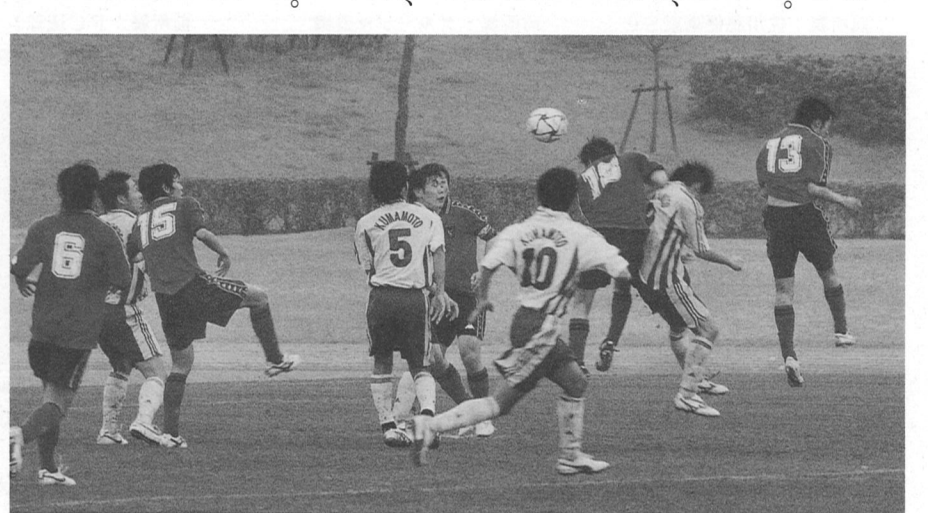
「絶えず雷鳴に注意し、空模様を見守ります。雷鳴がきこえたり雷雲が近づく様子があるときは、直ちに近くの建物、自動車、バスの中に入り、安全な空間に避難します。雷鳴は、遠くかすかに聞こえる場合でも、自分に落雷する危険信号と考えて、直ちに避難して下さい。雷活動が止んで20分以上経過してから、屋外に出ます。

屋根のない観客席も危険ですから、安全な場所に避難します。」

第21回 九州大学サッカーリーグ(前期)始まる

今年は1部なし 2部に熊本学園大・熊本大学

第21回九州大学サッカーリーグ前期は4月8日より5月14日(日)まで九州各地で行われる。1部には熊本勢はおらず、2部のAパートに熊本大学サッカー部、Bパートに熊本学園大学サッカー部が出場。2部の前期第2節は4月15日(土)熊本県民総合運動公園補助競技場で雨の中、佐賀大学と熊本大学の対戦となり、結果は3対1で佐賀大学の勝利となる。尚、日程は次の通り。



白は熊本大学赤は佐賀大学



監督 池谷 友良

選手歴：浜名高～中央大～日立製作所
指導歴：柏レイソル（サテライトコーチ）～ヘッドコーチ～監督～ユーススクールマスター～U-15日本代表コーチ～柏レイソル（監督）
1962. 6. 17生



rosso kumamoto ロッソ熊本選手名鑑

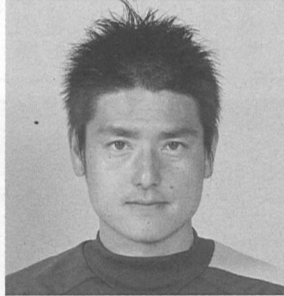
—2006年3月1日現在—

株式会社アスリートクラブ熊本 TEL 096-211-0630



ヘッドコーチ 北野 誠

選手歴：帝京高～日立製作所（現柏）～京都パープルサンガ 指導歴：京都パープルサンガ（ジュニアユースコーチ～同監督～ユースコーチ）A級ライセンス 1967. 7. 17生



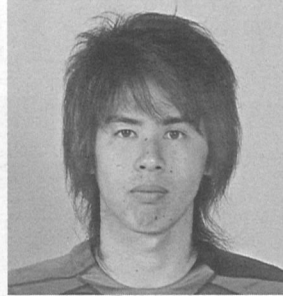
フィジカルコーチ 村岡 誠

板台高～愛知教育大～筑波大大学院 指導歴：筑波大学サッカー部Aチームフィジカルコーチ～柏レイソルユースフィジカルコーチ～柏レイソルフィジカルコーチ～アルビレックス新潟レディースフィジカルコーチ～なでしこジャパンフィジカルコーチ 1970. 6. 6生



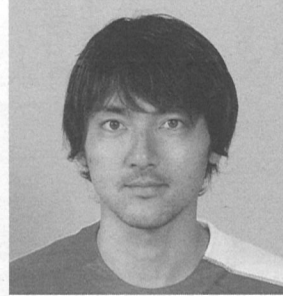
GKコーチ 加藤 竜二

選手歴：浦和学院高～東邦チタニウム～東京ガス～PJMフューチャーズ～柏レイソル～コンサドーレ札幌～サンフレッチェ広島～佐川急便 東京 1969. 12. 24生



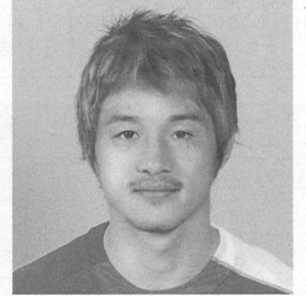
1 GK 太 洋一

千葉県出身
前所属：駒澤大学
1982. 8. 3生 186cm・75kg



2 DF 朝比奈 伸

静岡県出身
前所属：サガン鳥栖
1976. 8. 20生 182cm・76kg



3 DF 河端 和哉

北海道出身
前所属：コンサドーレ札幌
1981. 10. 22生 174cm・70kg



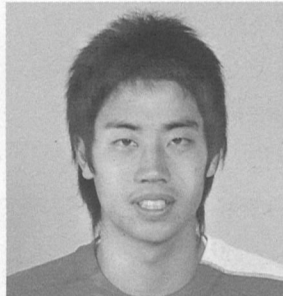
4 DF 鈴木 祐輔

埼玉県出身
前所属：駒澤大学
1982. 5. 19生 175cm・72kg



5 MF 山口 武士

熊本県出身
前所属：ソニー仙台
1979. 6. 10生 174cm・68kg



6 DF 福王 忠世

兵庫県出身
前所属：セレッソ大阪
1984. 5. 6生 178cm・77kg



7 MF 鈴木 勝大

神奈川県出身
前所属：サガン鳥栖
1977. 11. 26生 174cm・70kg



8 MF 鎌田 安啓

静岡県出身
前所属：コンサドーレ札幌
1980. 6. 11生 171cm・65kg



9 FW 高部 聖

山梨県出身
前所属：東洋大学
1982. 5. 9生 185cm・76kg



10 MF 森 一紘

兵庫県出身
前所属：ヴィッセル神戸
1981. 4. 17生 172cm・58kg



11 FW 高橋 泰

東京都出身
前所属：ジェフユナイテッド千葉
1980. 9. 29生 174cm・70kg



13 FW 町田 多聞

埼玉県出身
前所属：群馬FCホリコシ
1982. 2. 14生 176cm・68kg



14 FW 米山 大輔

三重県出身
前所属：セレッソ大阪
1982. 6. 10生 170cm・65kg



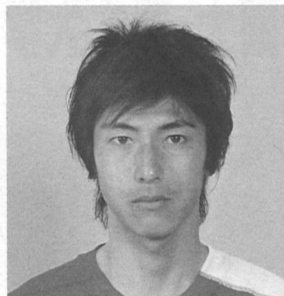
15 MF 市村 篤司

北海道出身
前所属：コンサドーレ札幌
1984. 11. 18生 178cm・68kg



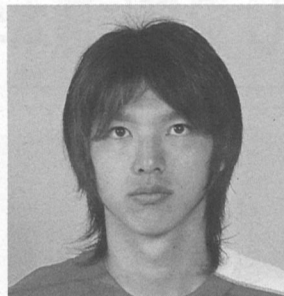
16 MF 内林 広高

滋賀県出身
前所属：ヴァンフォーレ甲府
1983. 6. 27生 170cm・68kg



17 MF 熊谷 雅彦

神奈川県出身
前所属：佐川急便東京SC
1975. 11. 23生 178cm・70kg



18 DF 大瀧 直也

山形県出身
前所属：グルージャ盛岡
1984. 6. 11生 180cm・72kg



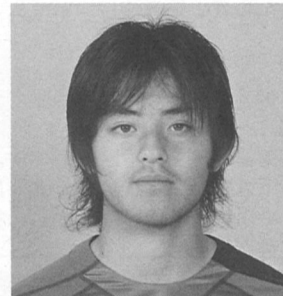
19 MF 濱田 照夫

熊本県出身
前所属：FC琉球
1978. 4. 14生 174cm・68kg



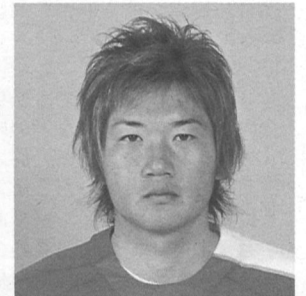
20 MF 関 光博

東京都出身
前所属：駒澤大学
1982. 5. 8生 172cm・66kg



21 GK 飯倉 大樹

神奈川県出身
前所属：横浜F・マリノス
1986. 6. 1生 181cm・72kg



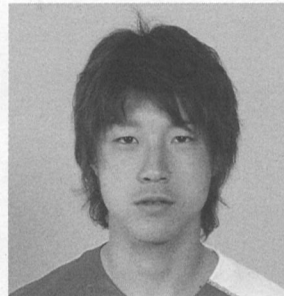
22 MF 大瀬良直人

熊本県出身
前所属：駒澤大学
1982. 4. 9生 170cm・65kg



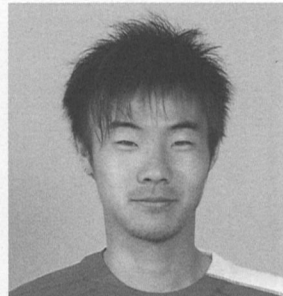
23 MF 河野 健一

三重県出身
前所属：日本文理大学
1982. 9. 1生 171cm・63kg



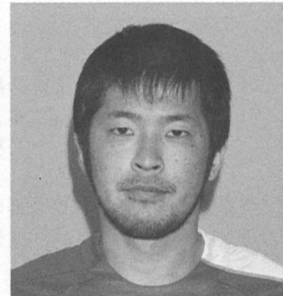
24 DF 遠藤 真仁

東京都出身
前所属：柏レイソルユース
1986. 5. 23生 173cm・65kg



25 FW 鈴木 真司

静岡県出身
前所属：清水エスパルス
1986. 8. 29生 169cm・62kg



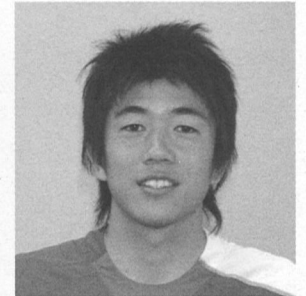
26 DF 森川 拓巳

静岡県出身
前所属：ベガルタ仙台
1977. 7. 11生 172cm・72kg



27 FW 福嶋 洋

愛知県出身
前所属：アビスパ福岡
1982. 7. 14生 182cm・74kg



28 MF 宮崎大志郎

熊本県出身
前所属：駒澤大学
1983. 4. 21生 174cm・65kg